

自然と社会の交互作用を研究対象とした 世界で最初の研究所にしたいと思います

防災科学技術研究所の運営をお預かりすることになった林春男です。

昨年の広島土砂災害、御岳噴火災害、そして今年の常総市の水害など、自然災害は頻発化・激化しているように思えます。しかも21世紀前半には国難というべき南海トラフ地震の発生も確実視され、未曾有の被害が予想されています。

防災科学技術研究所は、防災研究を推進する国の研究所としての大きな役割をはたすことが社会から期待されていると思います。こうした社会からの負託に対して十分に答えることを在任中の目標としたいと思います。

では、どうやって防災科学技術研究所を活性化できるかといえば、その答えは「国立研究開発法人防災科学技術研究所法」に書かれていると思います。この法の精神を確実に実現することが必要なのだと考えています。

第4条には研究所の目的として、「防災科学技術に関する基礎研究及び基盤的研究開発等の業務を総合的に行うことにより、防災科学技術の水準の向上を図ることを目的とする」と書かれています。これはまさに防災科学技術研究所が目指すべきビジョンとミッションを集約した条文です。

このビジョンについて、岡田前理事長はいろいろなところで、防災科学技術研究所の基本目標は「災害に強い社会の実現」であるとおっしゃっています。それに私も賛成です。だとす

れば、4条を踏まえると、「防災科学技術の水準の向上によって災害に強い社会を実現する」ことが防災科学技術研究所のビジョンになると思います。

ここで大切なのは、「防災科学技術」が何を指すかです。防災科学技術とは、1) 災害を未然に防止する予防力、2) 被害の拡大を食い止める対応力、そして3) 災害からの復旧・復興を実現する回復力、のすべてを含む、大変広い概念なのです。明文化されていませんが、これらの3つの力のどれを高めるにも、何が起きるかをしっかり理解する予測力が必要であることはもちろんです。したがって防災科学技術研究所は予測力、予防力、対応力、回復力のすべてを対象とした幅広い研究を促進することで、真の意味で防災科学技術の水準の向上をめざすべきだと考えています。

つぎの研究所のミッションについては、「防災科学技術の水準の向上を図るために、防災科学技術に関する基礎研究及び基盤的研究開発等の業務を総合的に行う」ことになると考えています。「基盤的研究開発」は、1) 防災科学技術に関する共通的な研究開発、2) 防災科学技術に関する研究開発であって、国の試験研究機関又は研究開発を行う独立行政法人に重複して設置することが多額の経費を要するため適当でないと認められる施設及び設備を必要とするもの、3) 防災科学技術に関する研究開発であって、多数部門の協力を要する総合的なもの、の3種類に防

防災科学技術研究所法では分類されます。

私は「防災科学技術研究所法」を読み、「防災科学技術」に関する「基盤的研究開発」の推進は、防災・減災に関するすべての事柄を研究対象とするに等しいと解釈し、防災科学技術研究所の研究活動は非常に大きな柔軟性と可能性を持っていると感じています。

これからの防災科学技術研究所は、これまでの研究をただ発展・継続すればいいというわけにはいかないと思います。今年3月仙台で第3回国連防災世界会議が開催され、2030年までの世界の防災のあり方を規定する「仙台防災枠組」が採択されました。そこには、自然災害に関する研究開発はずいぶん進んだにも拘わらず、依然として災害の被害は拡大している、災害リスクの減少は実現していない、という事実認識が出発点にあります。その原因とひとつして、現在の防災に関する「科学」・「技術」の不十分さをあげています。

現在の「科学」・「技術」に何が欠けているのでしょうか。「21世紀の社会と科学技術を考える懇談会」のホームページでは、我が国では科学とは「自然科学」と同義であり、「技術」とは自然科学に係る技術をいうと説明されています。現在の防災科学技術は暗黙のうちに「自然現象としての災害」を対象としているのです。しかし災害は自然と社会の交互作用のなかで発生します。したがって防災科学技術の研究開発も自然と社会の交互作用を対象としたものでなければなりません。自然と社会の交互作用を研究するには、自然のふるまいと社会のふるまいについての理解が前提です。両者がそろって始めてこれらの交互作用の分析が可能になります。

大切なことは、自然のふるまいの研究者と社会のふるまいの研究者が連携して、自然と社会の交互作用こそが研究対象であるという認識を共有して、これまでになかった新しい研究も始めることだと考えています。

こうした研究所はまだ世界に存在しません。だからこそ防災科学技術研究所を最初の研究所にしたいと思います。



国立研究開発法人防災科学技術研究所
理事長 林 春男

略歴

昭和58年06月	カリフォルニア大学大学院 心理学科 博士号(Ph.D)取得
昭和60年08月	弘前大学人文学部助教授
昭和63年09月	広島大学総合科学部助教授
平成03年04月	京都大学防災研究所 都市施設耐震システム研究センター 客員助教授
平成08年05月	京都大学防災研究所 巨大災害研究センター教授
平成17年04月	京都大学防災研究所 巨大災害研究センター長
平成27年10月	国立研究開発法人 防災科学技術研究所理事長 現在に至る